

会 議 等 報 告 (要 旨)

会議等名称 : 第1回社会教育委員の会議

日 時 : 令和2年10月5日(月) 14:00~15:30

場 所 : 総合文化センター412号特別会議室

【社会教育委員】

土門敦委員、園部幸春委員、佐藤道子委員、荒生令悦委員、小野英男委員、齊藤剛士委員、片桐晃子委員、加藤真知子委員、小田島健男委員、富士直志委員、小野與一委員、庄司憲昭委員

出席者 :

出席12名、欠席2名

【事務局】

村上教育長、本間教育次長、岩浪図書館長、平井八幡総合支所長、柿崎松山総合支所長、山口平田総合支所長、阿部社会教育文化課長、村井課長補佐、深松課長補佐、小野社会教育主査兼係長、長谷川主事、佐々木主事、佐藤専門員

出席13名

計25名

報 告 : 令和2年10月13日

内 容 : 以下のとおり

1 開 会

社会教育委員の変更について

酒田飽海PTA連合会からの推薦により、仲川慎一委員から園部幸春委員へ

2 教育長あいさつ

昨年度は、生涯学習推進計画を作るべく回数を重ね、ついに、「学ぶ つながる 生かす 人生100年時代の生涯学習」をサブタイトルに策定することができた。ご尽力いただいたことに感謝申し上げます。しかしながら、ようやく完成したと思ったところでコロナ禍に突入してしまった。推進計画が完成した後、委員の皆様からはこの計画を策定することがゴールではなく、これからが大事なのだと励ましをいただいていたが、コロナ禍においては事業の縮小や中止をせざるを得ない状況である。本日はまず推進計画に基づく進捗状況をご報告し、コロナ禍においてどのように推進計画に沿った事業を行っていくかという点について、率直なご意見をいただきたい。特に、ふるさと教育の進め方については、本市としてもしっかりと取り組んでいきたいと考えており、積極的に議論いただきたい。もう一点、コミュニティ・スクールについては、酒田市生涯学習推進計画の上位に位置する第2期酒田市教育振興基本計画の中に、今後コミュニティ・スクールや地域学校協働の取り組みを進めていくという方針が明示されている。これは文部科学省が努力義務として全国に呼びかけている取り組みであり、酒田市としてもこのあり方について検討していきたい。委員からは生涯学習推進計画と教育振興基本計画の整合性がとられているか気をつけていかなければならないとの助言があったが、生涯学習推進計画には地域との連携について記載があるのみでコミュニティ・スクールについてはっきりと書かれているわけではない。コミュニティ・スクール推進の母体はどこか、教育委員会でも議論を行った。一方で学校のことであるならば学校教育課の管轄ではないかとの意見もあったが、地域が学校の運営を承認するという強い権限を持つ性格上、あえて社会教育文化課を主担当課とすることに

決めた。当然、学校ひいては各校の校長が主体的に動かなければコミュニティ・スクールの導入は成しえないが、それと同じくらい地域の意識も強固でなければならない。社会教育文化課が忙しいことは承知の上だが、お願いしたところ社会教育指導員からの了解を得ることができ、一部の学校長を交え勉強会を開催した。現在の進捗はここまでであり、これからの道筋が立てられているわけではない。ぜひ社会教育委員の皆様からご意見を頂戴したい。個人的には教育委員と社会教育委員の両委員で議論を行う場を設けたいと考えている。将来の地域と学校の連携の在り方を方向付ける極めて重要な議題であるので、社会教育委員の皆様にも積極的な議論をお願いしたい。

3 会議

(1) コミュニティ・スクールの推進について <事務局説明>

①現状について

②今後について

委員長	<p>コミュニティ・スクールについては我々もまだ理解が足りない。質問しながら意見を述べていただき、酒田らしいコミュニティ・スクールを目指していきたい。</p> <p>(説明後) 資料の図で学校運営協議会について記載されているところを見ると、様々な分野の委員によって構成されていることがわかる。学校長の運営方針を承認するという事は、学校ごとに設置されるということでしょうか。酒田市は小中一貫教育を進めているが、小中学校それぞれに設置するという事でしょうか。</p>
事務局	<p>各校それぞれに置くことが基本となるが、複数の小学校が一つの中学校に集約されている場合は小中学校合わせて一つの設置も可能である。</p>
委員長	<p>この話は学校側にも説明会など行っているか。</p>
事務局	<p>現状は、一つの中学校と二つの小学校の校長にも入っていただき勉強会を一度開催したのみである。今後の流れはこれからである。</p>
委員	<p>学校運営協議会で出た意見は、学校側で教育課程に盛り込む必要があるということか。</p>
事務局	<p>そうなる。これはかなり強い権限を持っているということ。これまでの学校評議員とは性質が異なる。ただし、強制力はない。学校の運営方針を承認してもらえればよい。</p>
委員	<p>学校にとってかなり大変なことだと思う。強制力はなく、あくまで学校運営協議会の要望ということならばまだわかる。</p>
委員	<p>地域と学校の見直ししていくという活動は必要だと思う。子どもを育てていくという点で、学校に任せきりになるのではなく、地域で子どもを育てるために何ができるか考え、主体的に参画していくことが望ましい。人事にも意見を述べるができるというのは介入しすぎる気もするが、協力し合うための組織体を作ることは大事なのではないか。ただし、児童数が少なく学校が統合になってしまうと、一つの学校の対象となる地域が広範囲になってしまう、どうしてもつながりが希薄になってしまう。</p>

委員長	現在、各学校には学校運営協議会の簡易版ともいえる学校評議員会が設置されているが、意見の重みなどから性質は異なっている。
委員	今現在学校を取り巻く環境は、地域など様々な方面からのサポートがなくてはならない。先ほども出たように各学校には学校評議員会が設置されている。鳥海小学校では独自に学区のPTAと連携した現状把握のアンケート聴取を行い、生活指導に反映させている。令和4年度から本格的な小中一貫教育を行うための準備も進められている。新しい取り組みが相次ぐ中でコミュニティ・スクールの導入もとなると先生方は拒否反応を示すだろう。しかし、コミュニティ・スクールの推進は、災害における防災訓練や避難所開設等、学校と地域の強い連携が求められる際に母体として利用でき有意義だと思う。また、東京の麴町中学校に訪問した際、コミュニティ・スクールを導入したことで先生方の働き方改革に結びついていると伺った。コミュニティ・スクールには、それぞれの学校でこれまでもつながりのあった地域人材を整理しまとめていただくような働きを期待している。大変なのは地域コーディネーター役を担う人材。鶴岡市など、適任がいないところでは結局教頭が四苦八苦しているようだ。
委員長	先生方の理解を得ながら慎重に進める必要がある。仕事を増やすのではなく、現在ばらばらに進められている取り組みを整理していく形で進めるのがよいようだ。
委員	学校教員と社会教育関係者とどう共有していくかということは、簡単なようで一番難しい。コミュニティ・スクールが教育振興基本計画の一環であるならば、教育委員会内に学校教育課と社会教育文化課が相互に意見し方針を共有できるコミュニティ・スクール推進室を立ち上げるくらいの迫力が欲しい。そうでなければ、お互いに不満が出てしまう。令和4年から実施するのは急すぎる。手順を検討しなければならない。学校教員と地域住民と社会教育関係者の理解を得ることに時間をかけ、環境を整えていってほしいと思う。全国の事例を参考にしながら、具体的にどうやったらそういう環境を作っていけるか、市長部局も含め行政内部でももう少し議論していただきたい。
委員	考えが定まっていないのに進められているように感じる。小学校単位か小中一貫の単位か。学校運営協議会の定員は15人程度とある。子どもたちにどのような影響を与えるのか再度考えなければならない。教育は学校が主でPTAと地域はあくまで支え役である。そのぐらいの差があってしかるべきである。教育長の説明には海外の学校運営を真似して持ち込まれた仕組みだとあったが、日本になじむわけがない。正直、酒田市には導入していただきたくない。
委員長	まだ具体的な話が進められているわけでもないため、意見を言いづらい部分もある。今回は基本的な仕組みや考え方を学び、アイデアを精査し高めるところまではいかなかった。今後も議論の場があるということなので、その際に酒田方式のコミュニティ・スクールを検討していけたらよいと思う。

(2) 社会教育・生涯学習主要事業について <事務局説明>

①現状について

②ふるさと教育（郷土愛の醸成）関連事業について

委員長	<p>今年は新型コロナウイルス感染症によって事業の縮小や中止が余儀なくされている。来年は例年通り事業を進めていけると願いたい。今日は特に郷土愛の醸成を狙ったふるさと教育についてご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>コロナ禍という難しい状況において、工夫を凝らしながら事業を開催している点は素晴らしい。</p> <p>先日、関東圏からの移住者から、酒田市についてお褒めの言葉をいただいた。これほどよい環境で子育てできるところはないという。そのとき、市民は外から見た酒田市のよさに気づいているかが気になった。移住者の思いや考えを聞く機会があってもよいのではないかと思う。</p>
委員長	<p>私たちにとっては当たり前のものが、外から見るとハッとさせられることがある。若者の意見を聞き、そのよさを伸ばしていくことも大切だろう。</p>
委員	<p>松山小学校ではふるさと体験として、児童一人ひとりがふるさとについて調べ、発表し、質問し合う機会を設けている。学校教育の中でこのような取り組みがあることは大切である。また、偉人の写真を掲示する取り組みは、ふるさとに目を向けるきっかけとしてよいと思う。</p>
委員	<p>酒田市がよいところであることに同意する。偉人については知っている人は知っているが、ある程度のお年を召した方でも知らない人は多数いる。小中学校に写真を掲示する取り組みは素晴らしいが、写真だけの掲示では「写真の人」となってしまう。どのような作品を作った人なのか思い至らない。代表作などを並べて掲示すると子どもたちの興味関心につながると思う。</p> <p>ジオパークについて、カモンくんこどもニュースに載せられているコラムがとても面白い。以前、吉野弘氏の詩を何遍か選んで小冊子を作ったことがあったが、同じように小冊子にまとめて講座と連動していただきたい。主催講座の開催も素晴らしいが、さらに多面的にアプローチすると郷土愛の醸成に効果的だと思う。</p>
委員	<p>庄内柿の講座があるならば、市条梨や刈屋梨もよいと思う。外から来市し、酒田市のよさに気づいているといえれば地域おこし協力隊の方々がいる。地域おこし協力隊の方をコーディネーターにした講座を企画するというのはどうだろうか。</p>
委員長	<p>茂木善作氏について、委員の中にとっても詳しい方がいらっしゃる。旧鳥海小学校の校舎は、現在茂木善作氏の資料館のようになっている。</p> <p>ジオパークは10月が更新の時期である。第2ステージに入り期待できる事業と思われる。</p>
委員	<p>最近の傾向としてインバウンド需要を重視する。県外からの来市はもはや当然の話である。外国からの移住者に酒田市のよいところを聞くと、まず始めに挙がるのが人だ。コロナ禍においては難しい面もあるが、キャンプなどの屋外で人と交流できるような事業があると、話題になりよいと思う。</p>
委員	<p>一つ気になるのは、酒田文化伝承シリーズの第1回到酒田舞妓を持ってきて</p>

	<p>いる点である。女性にとっては負の文化。題材の選び方が男目線なのではないか。わざわざ第1回に取り上げるほどのことではないように思う。</p>
委員	<p>郷土愛の醸成からは外れるかもしれないが、地域で需要があるのは防災である。自分が住んでいる地区のハザードマップを確認する機会を設けてほしい。これまでは市が面倒を見てくれると思われていたが、今は地域住民が主体的に運営するようになってきた。先ほどのコミュニティ・スクールの説明を聞き、ほぼ今やっていることに肉付けされているだけで充分やっていけるものと認識した。一つ不安なのは、小中一貫教育の単位で学校運営協議会を設置すると、違うコミュニティ振興会が複数参加することになり協働が難しい。できれば小学校単位で設置していただきたい。</p>
委員	<p>初めての参加なので感想を述べさせていただく。ふるさと教育については、私を含め地元にながら地元のことを知らない人は多いと思う。去年ジオパークの飛島ツアーに参加し大変感動した。大人ですら知らない地元のよさについて、どのように子どもたちに提供できるかを考えた際、この事業計画には期待できると思う。</p> <p>またコミュニティ・スクールについては、自身も学校評議員として学校評議員会に参加しているが、これまでも評議員の意見を学校の運営方針に反映することによってよりよい学校運営につながった実感がある。さらに強力なサポートによって学校運営に参画できることはありがたいと思う。</p>

(3) その他

(特になし)

4 その他

特になし

5 閉 会